



大丸有で育まれる

# まちのみどり

大丸有エリアが目指すまちづくりにおいて、豊かな緑環境の整備は欠かせない要素です。そこで今回、グリーンインフラに関する調査研究に取り組まれている北栄階一さんと、公共空間のデザイン・マネジメントを専門とする三浦詩乃さんに、まちづくりにおける緑の価値とその重要性についてお話を伺いました。



広がる、大丸有の“まちのみどり”

**中村** 大丸有エリアでは、まちづくりガイドラインに示されている将来像の実現に資する緑環境の形成に寄与することを目的とした「緑環境デザインマニュアル」を作成し、緑環境の整備に取り組んでいます。周辺ですと、皇居の緑や仲通り沿いの街路樹、オフィス内外の緑が想像されますが、お二人は大丸有エリアの“まちのみどり”についてどのように感じていらっしゃいますか？

**北栄** 私の職場は大手町にあり、社会人になって以来、大丸有エリアは馴染み深い場所です。この十数年で再開発が進んでいますが、同時に生物多様性を意識した緑の整備が行われていると感じます。長期出張で2年ほど宮崎県に行っていたのですが、地方はありのままの自然はたくさんあるものの、まちなかには生物多様性を意識した自然公園や施設は意外と少なかったんです。

コミュニケーションを密にできる環境を整えるために、緑の重要性が改めて注目されていると感じています



株式会社日本政策投資銀行 管理部 課長  
北栄 階一さん

大手町に戻ってきて、まちの景色を改めて見た時に、緑を感じる場所がたくさんあると感じました。

**三浦** 確かに、「大手町の森」や「ホトリア広場」のように、スポットとして整備されているところが増えていきますよね。私は大丸有エリアのさりげない緑にも魅力を感じます。歩いていてふと目に入るところに小さな植物が植えてあるような、そういった細やかな心遣いが素敵だと思います。“ウォーカーブル”の観点で様々なまちを見てみると、歩いて楽しい空間づくりと緑を増やしていく取り組みは、意外と両立されていないことが多いんです。そんな中で、大丸有エリアは意識的に両立されていると感じます。

**北栄** 都内で大きな商業施設ができると視察に行くのですが、施設の中には緑がたくさんあっても、一歩外に出るとまったく緑を感じない場所が多いですね。歩いて楽しい、過ごしやすい空間づくりは、一つの施設だけではなかなか実現するのが難しいと思います。

**三浦** そうですね。大丸有エリアとして、モチベーション高く取り組んでいらっしゃるのの特徴的だと思います。千代田区が作成している「ちよだ生物多様性推進プラン」を見ると、皇居の緑を中心として、周辺エリアの生態系ネットワークの形成・強化がしっかり計画されています。民間企業が主体となって整備しているゾーンも着実に増えています。緑地に関する評価認定の取得も進んでいますよね。他のエリアから見ても、緑環境を整備する上で理想像の1つになっていると思います。

**中村** 大丸有では2025年3月に、国土交通省が評価認定する優良緑地確保計画認定制度「TSUNAGI」を取得しました。緑地の「量」だけでなく、気候変動対策や

生物多様性の確保といった「質」の観点からも評価認定する制度で、「大手町の森」は、緑地の量・質ともに最高ランクのトリプル・スター、「ホトリア広場」はダブル・スターを取得しました。

**北栄** 認定制度ができてすぐ取得されていましたよね。海外の事例調査にも行くのですが、ヨーロッパやアメリカで先進的な取り組みをしているところは自治体主導が中心です。一方、日本では大丸有エリアをはじめ民間主導で進められているケースが多く、非常に対照的だと思います。

**三浦** 街路樹の歴史を振り返ると、日本にはまちの緑を民間主導で増やしていく文化がもともとあったようです。日本初の街路樹は明治7年に銀座通りへ植えられた松や楓、桜だと言われていますが、東京大学景観研（中野渡さん、2025）の研究によれば、明治初期の街路樹は地域住民が「管理は自分たちで行うので植えさせて欲しい」と申し出て、少しずつ増えていったとのこと。シンボリックな緑を植えることも意義がありますが、民間主導で地域の緑を着実に増やしていくという手法が、日本らしい在り方なのかもしれません。

“まちのみどり”がもたらす多面的な価値

**中村** まちづくりにおいて、緑にはどのような役割があるのでしょうか？

聞き手



一般社団法人  
大手町・丸の内・有楽町地区  
まちづくり協議会 事務局  
中村 萌香



**三浦** 都市における緑は、見て癒されるというのはもちろんあります。が、二酸化炭素の吸収、ヒートアイランド現象の緩和、生物多様性の保全など、様々な面で重要な役割を担っています。特に生物多様性の保全については私も研究を進めていて、今度ロンドンに視察に行くのですが、そこでは地域の植生の理解を深め、公



緑を積極的に取り入れたオフィス空間

共の植栽帯に生えてくる野草もポジティブに捉えて緑を増やしていく取り組みを行なっているようです。ただ緑を増やすだけでなく、地域の植生を保全・継承していく取り組みは、今後さらに重要になってくると考えています。

共の植栽帯に生えてくる野草もポジティブに捉えて緑を増やしていく取り組みを行なっているようです。ただ緑を増やすだけでなく、地域の植生を保全・継承していく取り組みは、今後さらに重要になってくると考えています。

**北栄** 人が集まりやすく、過ごしやすい環境を作るという役割においては、まちの緑と同様に、屋内の緑も重要になってきていると感じます。最近私たちの会社では本社をリノベーションし、テレビ会議対応の会議室やフリーアドレスの執務室に加え、緑を積極的に取り入れた快適なオフィス空間に生まれ変わ

りました。コロナ禍は在宅やテレワークが多かったのですが、最近は社員にオフィスに戻ってきて欲しいと考えている会社が多いようで、オフィス空間を整える動きは、日本だけではなく世界的に起こっているようです。働く人が快適に過ごせて、コミュニケーションを密にできる環境を整えるために、緑の重要性が改めて注目されていると感じています。

という区切りになりますし、景色に変化が生まれるので、移動していきながら感じました。

**三浦** 私も「スーパーブロック」に行ったことがあります。一般的にウォークアブルシティを評価する時は視覚的な連続性に注目しがちですが、バルセロナでは「サウンドスケープ」という音環境に対する取り組みが進んでいます。欧州では、歩行者空間が広がることで交通騒音が減少することが、ストリート評価の指標の1つとして位置付けられているからです。日本の専門家によれば、木々のざわめきは車の交通音を遮り、まちの音を楽しめるようにする効果があるそう



です。緑はまちの音環境にも非常に良い影響を与えてくれるんです。

**北栄** 「サウンドスケープ」という考え方は面白いですね。大丸有エリアも、木々のざわめきや鳥の声がもっと身近に感じられるようになると思います。いったんビルの中に入ってしまうと、なかなか外の様子を知ることができませんし、移動中もイヤホンをつけていることが多いので、今度まちを歩くときは、音にも注意してみようと思います。



移動のプランと緑のプランを連動させていくことで、まちとしての価値がさらに高まってくると思います。



中央大学 理工学部 准教授  
一般社団法人ストリートライフ・メイカーズ 共同代表理事  
三浦 詩乃さん

**中村** 大丸有では働く人、来街者、子どもたちといった多様な立場に応じた緑の在り方にも注目していま

「みどり」が紡ぐ、まちの未来

**中村** 「緑環境デザインマニュアル」についても、緑そのものだけでなく、風や水、生物、テーブル・ベンチといった什器、その周辺で生まれる人々のアクティビティまで、包括的に考える方向で改定を予定しています。ご期待ください。

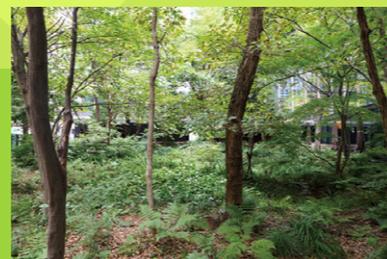
# OTEMACHI GREEN WALKING GUIDE



## 大手町の森

豊かな緑量と多彩な植物が育む  
都心のオアシス

「大手町タワー」の敷地約3分の1、約3,600㎡を占める「大手町の森」。「都市を再生しながら自然を再生する」というコンセプトのもと、学識経験者とともにフィールドワークを重ね、この地本来の植生を調査。自然の森が持つ「疎密」「異齡」「混交」の3要素を取り入れ、本物の森の再現を目指しました。現在では208種の植物、129種の昆虫、13種類の鳥類が育つ豊かな生態系が形成されています。10年以上にわたる継続的な取り組みが評価され、令和7年度グリーンインフラ大賞で最高位となる国土交通大臣賞を受賞。皇居に近い立地を活かした生態系ネットワークの拠点となり、ヒートアイランド現象の緩和や水の循環利用など、都市環境への貢献も期待されています。



ツバキやヤブソテツなど、景観にアクセントをつける点景種を重ねることで自然の森を再現している。



東京建物株式会社  
ビルマネジメント第一部  
グリーンインフラ構築推進チーム  
高橋優希さん

大丸有地区の知られざる魅力を体感するツアーイベント「OPEN CITY MARUNOUCHI」。担当者や樹木医と緑地を巡る「大丸有のみどり散策ツアー」は、毎回すぐに予約が埋まる人気のプログラムです。2025年に実施されたツアーで巡った施設を紹介します。

## Otemachi One GARDEN



常緑芝が敷かれた「インベリアルグリーン」を中心とした3,000㎡の広場空間でくつろげる。



## ホトリア広場



皇居の水と緑と調和した、  
緑豊かな憩いの場

「お濠のほとりに豊かな空間を」という願いを込めた「ホトリア広場」。皇居外苑濠に隣接する約3,000㎡の環境共生型緑地広場で、皇居の二の丸雑木林を意識した在来種や地域種が植えられています。緩やかな傾斜と水景施設が、人と自然をつなぐ「交流の森」を形成。毎月の調査を通じて植樹と生きものの繁殖の関係を把握し、トンボ類や鳥類にとって重要な生息地となっています。環境省や日本自然保護協会と連携した「濠プロジェクト」では、皇居のお濠から採取した泥の中に眠っていた希少な水草の復活に成功。こうした先進的な取り組みが評価され、環境省の「自然共生サイト」や国土交通省の「TSUNAG」認定を受け、都市における生物多様性保全のモデルとなっています。



三菱地所株式会社  
丸の内運営事業部 統括  
白石沙弥さん

水辺では、皇居のお濠の生物多様性の保全や復元に取り組んでいる。



三井物産の日本店にあったカルガモ池を模してつくられた水景。水深や水流を研究し、生き物が住み着きやすいよう外敵からの目隠しも設置されている。



三井物産株式会社  
コーポレートディベロップメント本部  
佐藤奈菜美さん

## 大手町エリア最大級の緑地空間

「Otemachi One」に隣接する、皇居を臨む約6,000㎡の緑地空間。7つのゾーンで構成され、季節の移り変わりを身近に感じながら、思い思いの時間が過ごせます。常緑芝が植えられたインベリアルグリーンでは、アートの展示やヨガイベントなど、一年を通じて多彩なイベントを開催。四季折々の木々や花々のそばにはベンチやテーブルセットが設置され、水のせせらぎが心地よい水景ゾーンなど、都市の喧騒から身体と心を開放させてくれるリラックス空間が広がっています。大手町の中でも圧倒的な緑量を誇る植栽は、都心におけるクールスポットの形成やカーボンニュートラル、生物多様性など、環境への貢献も期待されています。



散策しながら楽しめる四季折々の木々や花々の情報も。



「サクセッションフォレスト」には砂利が敷かれ、五感を通して自然を感じることができる。



落ち葉を入れたコンポストで腐葉土を作り、土壌改良に活用している。

## 丸の内のはちみつってどんな味？

ビジネス街のイメージが強い大丸有エリアですが、半径2〜4kmには豊富な街路樹や緑地の他、皇居や日比谷公園など豊富な蜜源があり、上質なはちみつが採れます。はちみつは、まちの花が毎週移り変わるのに伴って、毎週毎週その味わい移り変わり、春はフローラル、初夏は若葉のような爽やかさ、夏はフルーティな味わいを楽しむことができます。



## 自然と共生するまちづくりに向けた新しい取り組み



花を咲かせる植物の約90%が、ミツバチやチョウなどの「ポリネーター」に支えられており、生き物や人の暮らしに欠かせない存在です。丸の内ハニープロジェクトでは、はちみつに含まれる花粉DNAなどを分析し、ミツバチが利用する植物や季節ごとの蜜源の変化を調べることで、ポリネーターにとってどのような植物が重要かを科学的に調べています。これらの調査結果をもとにエリアの植栽に反映する取組を進めています。



エコツェリア協会  
(一般社団法人 大丸有環境共生型まちづくり推進協会)  
シニアディレクター  
松井宏宇さん

## ビルの屋上が養蜂場!? 大丸有から広がる共生のまちづくり

2015年に大丸有エリアで始まった都市養蜂プロジェクト。「銀座ミツバチプロジェクト」と「日本工業倶楽部」の共同事業として、日本工業倶楽部会館の屋上でセイヨウミツバチの養蜂を開始し、2016年7月には大丸有協議会やエコツェリア協会も参加し、「丸の内ハニープロジェクト実行委員会」を設立しました。都市養蜂を通じて、コミュニティを築くとともに、エリアの豊富な自然と共生する環境都市・健康都市を目指すまちづくりに取り組んでいます。毎年4月から8月下旬にかけて、大丸有エリアで働く方々とともに、就業前の時間を利用して採蜜活動を実施。採れたはちみつは、エリア内の飲食店やホテルで活用されるほか、商品化も進んでいます。発足当初は少人数での活動でしたが、現在では個人だけでなく企業としての参加も増加し、採蜜量も年々増えて、2025年には、開始以来参加人数延べ1089名を記録。年間約80kgを収穫するまでになりました。近年では、養蜂を通じた環境教育や蜜源調査をまちの植栽に活かす取り組みも始まり、生きものにとっても優しいまちづくりを目指しています。



## 丸の内ハニーを味わえるスポットはこちら



1. ザ・ロビー  
ザ・ペニンシュラ東京1F
2. スイーツ&ギフト  
東京官邸 本館1F
3. ADRIFT by David Myers  
二重橋スクエア1F
4. 東京国際フォーラム  
パーティー会場
5. ラブティックドゥジョエル・ロブション 丸の内店  
丸の内ブリックスクエア1F
6. ラベイユ新丸の内ビルディング  
新丸ビルB1F
7. 日本工業倶楽部
8. ベストリーショップスイーツ&デリ  
パレスホテル東京B1F
9. 寛永堂  
丸の内オアゾB1F
10. フレンチレストラン ポム・ダダン  
丸の内ホテル8F



丸の内ハニープロジェクトの軌跡と展望(10年記念誌)はこちら

※期間限定メニュー、要事前予約メニュー、会員限定施設等を含む。

2026 SPRING

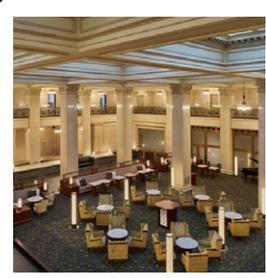
# CITY INFORMATION

大丸有地区の施設、イベント、取組など様々なまちのニュースをご紹介します。これまで知らなかったまちの魅力に触れられるチャンス！是非チェックしてみてください！



## 環境にやさしい大丸有エリアの無料巡回バス 丸の内シャトル

丸の内シャトルは、どなたでも無料でご乗車いただける巡回バスです。15か所ある乗降場で、1日何度でも乗り降り自由です。大手町・丸の内・有楽町を中心に、平日は8時から19時、休日は11時から18時、元旦を除く毎日運行しており、エリア内の移動を便利にします。また、環境にやさしいバイオ燃料を使用しており、CO<sub>2</sub>削減にも取り組んでいます。ご利用の際は、バスナビアプリをご活用ください。



## 明治生命館 明治安田 CAFE 丸の内

昭和の建築として初の重要文化財指定を受けた明治生命館は、2025年11月22日(土)にリニューアルオープンしました。1階に新たに誕生した「明治安田 CAFE 丸の内」では、歴史ある上質な空間の中で、厳選したコーヒー、紅茶、季節のフルーツを用いたパフェやケーキ、和洋スイーツ、お重で提供するアフタヌーンティーをお楽しみいただけます。併せて展示エリアを拡充し、竣工当時の未公開資料や映像展示もご覧いただけるようになりました。歴史の歩みと四季の移ろいを体感しながら、特別なひとときをお過ごしください。



【営業時間】10:30~18:30(お食事のL.O.17:30 お飲み物のL.O.18:00)  
【定休日】月曜日・火曜日

## 創刊150周年記念、日経の歴史と未来を体感 NIKKEI MUSEUM、日経東京本社にオープン!

日本経済新聞社東京本社2階にNIKKEI MUSEUMがオープンしました。年表グラフィックで時代を象徴するニュースや日経グループの歩みを紹介、大画面ディスプレイではアーカイブ紙面や、創業者ら経営者のエピソードを披露。キーワードから日経グループのコンテンツを楽しみながら視聴できるしかも用意しています。ぜひお立ち寄りください。



【開館時間】平日11~18時、入場無料  
※日本語と英語に対応



## ラ・フォル・ジュルネ TOKYO 2026

2026年5月3日から5月5日の3日間、世界最大級のクラシック音楽祭「ラ・フォル・ジュルネ TOKYO 2026」を開催! 今回のテーマは「LES FLEUVES レ・フルヴー 大河」。古くから流域の文化や音楽の発展において中心的な存在であり、作曲家や作品にも多大な影響を与えてきた諸大陸の「大河」にスポットを当て、音の世界旅行へと皆様を誘います。大河で繋がりが広がる音楽の旅へ出発しましょう!



【開催日時】2026年5月3日~5日 【開催場所】東京国際フォーラム  
【主催】ラ・フォル・ジュルネ TOKYO 2026運営委員会

## 丸の内学 地球と未来のこと 大丸有ゼロカーボンスクール

大丸有エリアでは、有識者による委員会での議論と提言を踏まえ2022年3月に「大丸有エネルギービジョン」を公開し、2050年カーボンマイナスを目指す姿勢が示されました。脱炭素化、気候変動対策、さらにプラネタリー・バウンダリー、プラネタリー・ヘルスに向けた取り組みを皆さんと一緒に考えていきませんか。講演のみならず、ネットワーキング等も実施する1クール3回セットのスクールです。



【開催日時】2026年度は6月より開講 ※詳細はWEBページにてご確認ください。  
【開催場所】3×3Lab Future 【主催】エコツェリア協会



千代田区大手町1-5-1 大手町パークビルディング1011区画 TEL 03-6812-2650  
営業時間 平日 11:00~15:00(L.O.14:30) / 17:30~22:30(L.O.22:00)  
土日祝 11:00~15:00(L.O.14:30) / 17:30~22:00(L.O.21:00) 定休日 施設に準ずる 席数 95席



## ダクシン大手町店

大手町の森が目の前に広がるラグジュアリーな空間。

2023年にオープンした「ダクシン大手町店」は、本格的な南インド料理を味わえる人気店です。2フロアにわたる広々とした店内では、大きな窓越しに「大手町の森」を眺めながら食事することができます。南インドは海に囲まれた地域であることから、魚介類や豆を使ったサラサラとした食感のカレーが多いのが特徴。インドの伝統的な健康法「アーユルヴェーダ」の思想のもと、厳選したスパイスとハーブを使用した身体をいたわる一皿をお楽しみいただけます。ランチタイムに人気のメニューは、日替わりカレー3種を味わえる「本日のカレーランチ」。焼きたてのナンが、ナンの生地を揚げた「バトゥラ」とライスの組み合わせから選ぶことができます。ミールズ(定食)やドーサのセットもおすすです。



日替わりカレー3種が楽しめる、本日のカレーランチ ¥1,300(税込)

心地よい店内で、本格的な南インド料理をお楽しみください。



メインシェフ  
アヤナール・カンナンさん



千代田区大手町1-1-1 大手町パークビルディング1階 TEL 03-3217-5252  
営業時間 11:30~15:00(L.O.14:00) / 17:30~21:30(L.O.19:30)  
定休日 第2・4土曜、日曜定休 席数 店内50席 テラス20席



人気の「ロティサリーチキンコース」は、ご褒美ランチにぴったり ¥3,850(税込)

ホトリア広場を一望する贅沢なロケーション。開放的なテラス席も人気。

緑あふれる開放的な空間で、ゆっくり食事をお楽しみください。



マネージャー  
中澤正史さん



## ル・ブルー ブラッスリーうかい

「とうふ屋うかい」や「うかい亭」など、数々の名店を手がけるうかいグループが展開する「ル・ブルー ブラッスリーうかい」では、ロティサリーチキンをメインとしたフランス料理を気軽に楽しみいただけます。「大手町パークビルディング」1階に位置し、テラス席とシームレスにつながる大きな窓から、「ホトリア広場」と皇居の緑を一望できるのも魅力的。ランチタイムに人気の「ロティサリーチキンコース」は、メイン料理にサラダ・スープ・デザートがついた充実のラインナップ。専用のオーブンでじっくり丁寧に焼き上げられた鶏肉は、外側はパリッと、内側はジューシーで旨みが凝縮しています。季節の移ろいを感じながら、贅沢なひとときをご堪能ください。

# 大丸有で おいしい時間

大丸有の  
緑を感じながら楽しむ、  
ご褒美ランチ

大手町、丸の内、有楽町でしか味わえない、  
とっておきグルメをご紹介します。  
今回は、緑豊かな眺望が自慢のお店を厳選しました。

EVENT REPORTS



- ①大丸有の目抜き通りを歩きながらめぐる近代建築昭和モダン建築ツアー／(株)三菱地所設計・三菱地所㈱
- ②地下空間探検～大丸有エリアを支える地域冷暖房～丸の内熱供給㈱
- ③鉄鋼ビルディング探検 ～知られざるの歴史～/ (株)鉄鋼ビルディング
- ④有楽町の歴史と未来ツアー／有楽町マリオン(代表企業:朝日新聞社)・(株)東京交通会館・東京高速道路㈱

大丸有の知られざるの魅力を発見できる施設見学ツアー  
**OPEN CITY MARUNOUCHI 2025**

日本有数のオフィス街である大手町・丸の内・有楽町地区の、普段は立ち入れない施設や空間をめぐり、知られざるの魅力を体感できるツアーイベント、それが『OPEN CITY MARUNOUCHI(OCM)』です。大丸有協議会30周年を記念して2018年にスタートし、今年は過去最大規模となる29のガイドプログラムを実施。約500名が参加し、大盛況のうちに終了しました。プログラムでは、有楽町地区の企業がリレー形式でまちの魅力を紹介する「有楽町の歴史と未来ツアー」や、和傘の灯りが大手町の夜を彩る「和ルミネーション」との連携企画など、エリアの個性を活かした多彩な体験をご用意。また、11スポットを巡るデジタルスタンプラリーやInstagramフォトキャンペーンなど、楽しみ方もさらに広がりました。次回開催日は決定次第、公式WEBサイトでお知らせします。今後も進化するOCMにぜひご期待ください!

【開催日時】2025年10月24日(木)～11月9日(日)  
 【開催場所】大手町・丸の内・有楽町エリア周辺施設等  
 【主催】OPEN CITY MARUNOUCHI 2025実行委員会(構成団体:当協議会、NPO法人 大丸有エリアマネジメント協会、DMO TOKYO Marunouchi、三菱地所株式会社)

大丸有まちづくり協議会シンポジウム

**FACE 2025 ～対面すれば、生まれる未来。～**

開催7回目を迎える今年度は例年とは趣向を変え、第一部はZ世代の学生と大丸有地区に関連する企業等との共創型ビジネスコンテスト「大丸有みらいチャレンジ」の決勝戦として開催。各企業等が提示する社会課題に対し、Z世代の学生チームが企業の担当者と共にアイデアを磨き、実現性の高いソリューションを提案しました。最優秀賞は三井物産チーム。進学や就職で東京に移り住むZ世代に着目し、街の特徴を多面的に可視化する新たなアプローチを提案しました。会場投票による特別賞は三菱UFJ銀行チーム。オフィスでのごみ分別の負担感を解消する仕組みを提示し、学生ならではの視点を活かしたアイデアが評価されました。続く第二部では、世界的に注目される「Regenerative(リジェネラティブ)」をテーマに、各分野の第一線で活躍するプロフェッショナルによるクロストークを展開。サステナビリティの先を見据えた新潮流について、熱い議論が交わされました。

【開催日時】2025年12月17日(水)14:30～17:55  
 【開催場所】丸ビルホール(対面/オンラインのハイブリッド開催)  
 【主催】当協議会【協力】Earth hacks株式会社、NPO法人 大丸有エリアマネジメント協会、三菱地所株式会社



第一部:学生によるプレゼンの様子

第二部:クロストークの様子



Oh MY Map!



Oh MY Smart City



見どころ満載の大手町・丸の内・有楽町をマップ片手に  
 回遊!「Oh! my map」でまち歩きが楽しく!

千代田区防災ポータルサイトアプリ

発災時の避難情報や被害状況から平時の公共交通機関の運行状況・気象情報まで、千代田区の防災情報等を簡単に確認することができます。ぜひダウンロードしてみてください!



ADVERTISEMENT

当協議会では、On!57号(掲出予定期間:2026年10月～2027年3月)に掲載する広告を募集いたします。

申込/お問合せ先:contact@tokyo-omy-council.jp

about On!

『On!』のタイトルは「Old but New」の頭文字に由来するものです。新旧の魅力がともにあり、常に前進し続ける大丸有エリアのまちづくり情報やおすすめスポットをご紹介します。



一般社団法人大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会  
 〒100-8133 東京都千代田区大手町1-1-1  
 TEL03-3287-6181 FAX03-3211-4367  
<https://www.tokyo-omy-council.jp/>

On!バックナンバー、大丸有まちづくり協議会のInstagram、読者アンケートはこちらから

